

宇和島地域は四国の西端部に位置し その北縁部は秩父帯他の部分は四万十帯に属する。宇和海に面する沿岸部はリアス式の海岸をもち そこにはミカンの段々畑がひろがる。内陸に向かうと急速に高度を増し宇和島市街の背後には高月山(1,229m)を含む急峻な山地がせまっている。本地域の東半部は四万十川流域にはいり吉野川やその支流沿いにはかなり幅広い沖積地がひろげ 河成段丘が発達する。

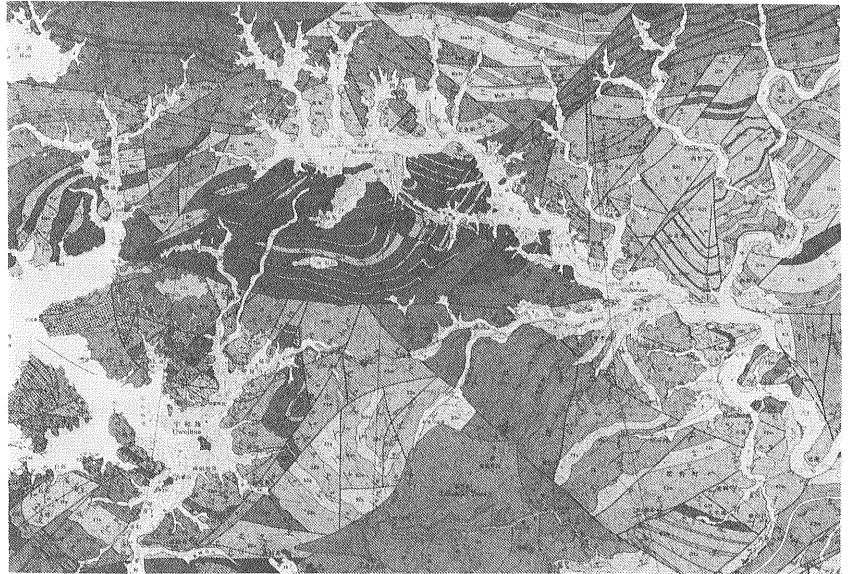
秩父帯にはチャートや石灰岩に富む板ヶ谷層が分布し 一部に砂岩を主とする大層層が露出する。板ヶ谷層の石灰岩は石炭紀～二畳紀の紡錘虫及び三畳紀のコノドント・二枚貝 チャートは二畳紀～三畳紀の放射虫 泥質岩はジュラ紀中期の放射虫を産する。大層層からは化石未発見であるが これは上部ジュラ系の可能性が高い。

四万十帯には下部四万十層群(四万十層群の白亜系部分)が広く分布し 中新世花崗岩類の貫入を受けている。一般に四万十層群には大型化石がごくまれであるが 本地域では部分的ながら アンモナイトやイノセラムス・その他の貝化石を多産し 岩相・地質構造の点でも特異である。本地域の四万十帯は 白亜系の岩相・時代・化石内容と産出頻度・砂岩組成及び構造の地域的な差異に基づき 南から北へ 北灘地塊(チュロニアン～コニアシアン) 下波地塊(セノマニアン) 宇和島地塊(セノマニアン～サントニアン) 泉が森地塊(パレミアン～コニアシアン) 広見地塊(セノマニアン～サントニアン) 下大野地塊(アルビアン) 吉田地塊(セノマニアン～コニアシアン) 奥浦地塊(アルビアン) 及び法花津地塊(下部白亜系～セノマニアン?)に大別され これらの地塊はいずれも断層で画されている。なお カッコ内は各地塊に分布する地層の時代であり 時代決定は大型化石と放射虫化石を組み合わせて行われている。

各地塊の地層は更に細かく分けられており 凡例を一見しただけでは各層の相互関係がわかりにくいので 地質図の余白に地質構造区分と層序区分を図示してある。地塊による層相や堆積物組成の違い それぞれの地塊内における層相の側方変化などからみると 地層堆積時における各地塊の位置関係は現在のそれとかなり異っていたと考えられる。そこでこの問題についても若干の考察がなされている。

地質ニュース 381号 P14 第1表の昭和61年度予算額のうち下記項目を訂正

項 目	誤	正
国際研究協力事業 (ITIT) 小計	17,467	17,464
合 計	1,134,367	1,101,694



中新世花崗岩類は高月山を中心とする山岳地に主として分布し 多くの捕獲岩を含んでいる。この高月山岩体では 一般的傾向として下位から上位へ 粗～中粒花崗閃緑岩→中～細粒斑状花崗閃緑岩→花崗斑岩 という岩相の垂直変化が認められる。

宇和島地域は地質的に興味深く 交通の便もよいので 地質巡検のフィールドとして好適であり 本地質図幅はそのよい案内書となるであろう。



5万分の1地質図幅の新刊

宇 和 島  
UWAJIMA

5万分の1地質図幅 地域地質研究報告



著 者 寺岡易司・池田幸雄・鹿島愛彦

発 行 工業技術院 地質調査所

取 扱 先 東京地学協会 (03) 261-0809 262-1401

そのほか全国主要書店

販売価格 3,590円

地 質 ニ ュ ー ス	第 382 号	6 月 号
	定 価 5 630	千 実 費
昭和61年6月1日	発 行	
編 集	工業技術院地質調査所	
発 行人	林 久 雄	
発 行 所	株式会社実業公報社	
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	〒 102	
	Tel. (03)265-0951(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	
	出版事業部	